

# 一過性脳虚血発作 (Transient ischemic attack :TIA)

一過性脳虚血発作 (TIA)とは一過性に脳虚血に伴う神経症状が現れる病気のことです。病態としては脳梗塞の前触れとして現れます。

## ➤ どんな症状が出るの？

脳虚血に伴う神経症状とは、具体的には片側の脱力(片手だけ握力が落ちた、片足の力が入らなくなった、口元が片側だけゆがむ etc.)、構音障害(急に呂律が回らなくなった etc.)、視野障害(視界の半分だけ見えなくなった、片目だけ視界が黒くなって見えなくなった etc.)などの症状を指します。病名からよく気絶や意識消失を一過性脳虚血発作と間違われますが、片側の脱力、構音障害、視野障害といった症状が典型的な TIA の症状です。

## ➤ 一過性ってどれくらい続くの？

言葉の通り一過性と一言でいっても分かりにくいですが、大体、数分から数時間の症状が続くことが多いです。症状が長く続けば続くほど、脳梗塞に至る危険が高くなると言われています。

## ➤ 治療はどうするの？

下に日本脳卒中学会が出している脳卒中治療ガイドラインの一部を抜粋します。

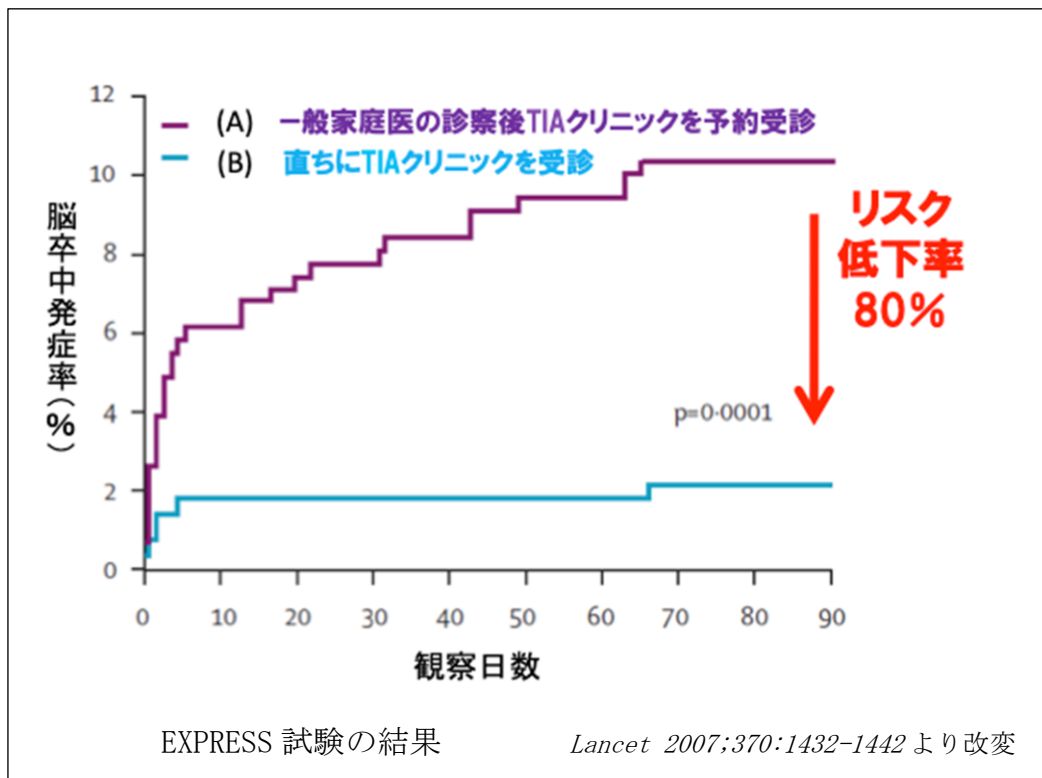
- ・一過性脳虚血発作を (TIA) と診断すれば、可及的速やかに発症機序を評価し、脳梗塞発症予防のための治療を直ちに開始しするよう強く勧められる (グレード A)。

脳卒中治療ガイドライン 2015 より

ガイドラインにあるように、TIA の症状が現れば、すぐに脳梗塞に準じた治療を開始するように推奨されています。つまり、一過性で症状が改善していてもそのまま様子を見ずに、すぐに病院を受診して治療を受けることが大切なのです。

## ➤ どれくらいの人が TIA の後、脳梗塞になるの？

以前、英国で行われた試験で EXPRESS 試験という試験がありました。TIA の患者さんを、(A) クリニックを予約して後日治療した場合 (B) すぐ病院を受診して治療した場合との 90 日以内の脳卒中発症率を比べた試験です。結果は、以下の通りで(A)の後日病院に行って治療をした人は、90 日以内に約 1 割の人が脳卒中になっていました。一方で(B)のすぐに治療を開始した人は、(A)の人達に比べて、約 80%脳卒中になる人が減っていました。このことから、すぐに治療を開始することが大切であることがわかります。



➤ **どんな人が脳梗塞になりやすいの？**

TIA は病院に着いた時には症状が改善しているため、脳梗塞になりやすい、より危険な TIA を予測するスコアが開発されています。ABCD<sup>2</sup> スコアと呼ばれていて、年齢、血圧、臨床症状、症状持続時間、糖尿病を評価して合計 7 点で評価します(下表参照)。

<b>A</b> 年齢(Age)	60 歳以上	1 点
<b>B</b> 血圧(Blood pressure)	収縮期血圧 ≥ 140mmHg and/or 拡張期血圧 ≥ 90mmHg	1 点
<b>C</b> 臨床症状(Clinical features)	片側の脱力	2 点
	脱力を伴わない言語障害	1 点
<b>D</b> 時間(Duration of symptoms)	60 分以上	2 点
	10 - 59 分	1 点
<b>D</b> 糖尿病(Diabetes)	糖尿病あり	1 点
		<u>合計 7 点</u>

表.ABCD<sup>2</sup> スコアの点数内容

TIA 後 48 時間以内に脳梗塞を発症するリスクは、ABCD<sup>2</sup> スコアの低リスク群 (0-3 点)で 1.0%、中リスク群 (4-5 点)で 4.1%、高リスク群 (6-7 点)で 8.1%とリスク群の重症度に応じて脳梗塞の発症頻度が高くなっていきます。